

Web 企画展「世界の牛切手」の開催にあたって

奥州市牛の博物館では、牛の姿が描かれた切手を収集しています。日本では、牛の切手というと丑年に発行される年賀切手を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、世界各国から発行される牛切手は、牛を主題に描いた純動物切手、他の主題の中に牛が描かれた準動物切手、牛の姿が図案化された図案動物切手など実に様々です。切手という小さな画面の中に描かれた牛の姿には、当館がテーマとする「牛と人との関わり」のお国柄や時代を反映した豊富な情報が含まれているほか、切手の歴史を語るうえで欠かせない牛切手も何種類もあり、様々な角度でウシを語るができるコレクションです。

牛の博物館では、開館の翌年に「切手にみる世界の牛たち」という企画展示を開催しています。以後、収蔵資料展として紹介したことはありましたが、コレクターからの寄贈資料が新たに加えられたこともあり、現時点での収蔵資料を Web 上で一堂に公開することにいたしました。数千点ともいわれる世界の牛切手の一部ではありますが、ウシと人との深い関わりを感じていただければ幸いです。

令和2年9月19日

牛の博物館長 鈴木 啓一

【凡例】

- ・本展において紹介する切手は、令和2年9月1日時点における奥州市牛の博物館の収蔵資料です。
- ・本展の切手の分類は、牛の博物館が切手の図案をもとに独自に行いました。
- ・各分類における切手の配列は、外務省ホームページに従い、アジア、大洋州、北米、中南米、欧州、中東およびアフリカの順とし、各地域内においては日本語国名の五十音順、年代順としました。ただし、レイアウトの都合により、一部入れ替えを行っています。

【注意】

- ・郵便切手類模造等取締法に抵触する可能性がありますので、切手を表示している図版の印刷は行わないでください。